第 4 回ソーシャルイベント研究会 レポート

■日　時　　平成 25 年 12 月 6 日(金) 16：00～18：00
■会　場　　日本イベント産業振興協会 会議室
■議　題
・研究会の趣旨と進捗状況報告
　小林政則
・「ネタメッセ」プレゼンテーション
　宮地克昌　澤内隆　田中滋
　平山良一・田中佐衣子
・「イベント見本市」プレゼンテーション
　賀来和広

【出席者】14 名
内田なお子（昭栄プリント）、大根田利夫（ダーツ）、賀来宏和（グリーンダイナミクス）
加藤淑子（エンコーポレーション）、小西甫正（オーイーエヌパートナーズ）
小林政則（イベント支援ネットワーク）、澤内隆（東京都レクリエーション協会）
鈴木純子（日本リ・ファッション協会）、田中佐衣子（日本ラベル）
田中滋（DEN&A）、手島秀吉（ネルソンスペースジェイ）、原田周平（都市緑化開発機構）
平山良一（日本ラベル）、宮地克昌（東京観光専門学校）
［オブザーバー］　高橋悦子（公園財団）
［事務局］　小西功一、菊地浩之

■ソーシャルイベント研究会の進捗状況 （小林座長）

9 月 4 日にこの研究会を立ち上げ毎月開催を続けて今回で 4 回目となる。ネット上には、会員のビジネスやアイデアを集めた「勝手にプロポーザル」をアップし、自治体や施設管理者に直接提案する活動も行っている。提案内容のエントリーシートをイベント学会の HP にアップしている。現在 15 件ほど集まっているが、積極的に登録していただきたい。

URL　http://eventology.org/9/3.html

今日の前半は「ネタメッセ」プレゼンを 4 名、「イベント見本市」プレゼンを 1 名の方に発表していただく。皆さんもご自身の事業や活動に関するプレゼンテーションをお願いしたい。

■「ネタメッセ」プレゼンテーション

1）宮地克昌（東京観光専門学校）

「公園財団が取り組んでいる『夢プラン』」

全国に 17 カ所ある国営公園や自治体の公園の管理運営を行う公園財団が推進する『夢プラン』（公園で実施してみたいイベントやアイデアを公募

するもの）を紹介。ソーシャルイベント研究会の活動の中から面白いコンテンツやイベントのアイデアを出していただきたい。

2）澤内隆（東京都レクリエーション協会）

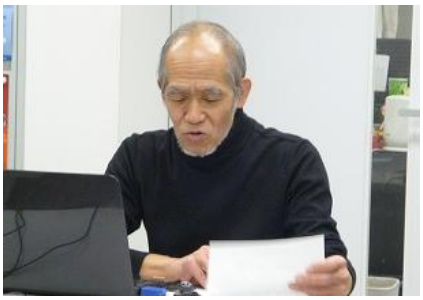
「スポ・レクによる元気倶楽部のすすめ」

東京都レクリエーション協会の加盟団体や競技をソフトとして活用するイベントのアイデアを紹介。生涯スポーツや趣味を通じた人と人との絆をつなぐイベントや、東京都の助成金を活用したイベント等多彩な活用方法を提案。

3）田中滋（DEN&A）

「自転車に関するプレゼンテーション」

自転車人口の増加とともに歩道走行事故の急増を踏まえ、安全な自転車社会の構築を目指す Good Charism Action を提案。生活者の意識改革と自転車に対応した街づくりを目指して提言を続けていく。



4）平山良一・田中佐衣子（日本ラベル）

「日本ラベルの大型グラフィクス出力部門ご紹介」

車両ラッピングや床面広告などに活用されている大型グラフィクス出力を紹介。イベントに使われる各種立体物にも自由に絵柄を貼付けることが可能であり、アイデア次第で多彩な活用方法がある。

■「イベント見本市」 プレゼンテーション

賀来宏和（グリーンダイナミクス）

「花のイベントとその曲がり角、今後の展望」

全国都市緑化フェアの変遷

昭和 40 年代から 50 年代にかけて、公害問題などを受け緑化事業が盛んになった。地方都市でも道路の緑化や運動公園の整備が進み、公共事業としての緑化は一定の役割を果たした。その後は、民有地の緑化を進めるべきだという方針が決定し、環境大国であるドイツをモデルに緑化フェアを開催することになった。

・第一期（1983～1991 年前後）

博覧会ブームを追い風に、パビリオンがある大規模な緑化フェアを開催。

・第二期（1990～2000 年前後）

パビリオンに頼らない本来の緑化フェアの形が復活した時代。2000 年に淡路花博も開催された。

・第三期（1999～2011 年前後）

市民に目を向けた緑化フェアの開催。企業の CSR 活動、市民レベルのガーデニングの提案等が盛んに。
・第四期（2012 年～）
緑化フェアに限らず他のイベントについても、地方自治体の財政力低下に伴い模索中の状態。

都市緑化フェアの歴史

1990 年の国際花と緑の博覧会（花の万博）はアジアで初めての園芸博覧会であり、1984 年にリバプールで国際園芸博覧会が開催された際、現在の皇太子殿下がイギリスにご留学されていたことから、王室からのお誘いを受けて出展したことが契機となった。
国際園芸博覧会は第二次世界大戦以降にできたものだが、原初的なものは 19 世紀中頃にヨーロッパで始まっている。
オランダやドイツなどヨーロッパで行われてきたが、近年ではアジアでも盛んに行われている。（写真を中心に事例を紹介）

日本の園芸造園技術と最近の都市緑化フェアの傾向

日本の技術は世界屈指のもので、花緑はもとより果樹の接ぎ木などは世界一の評価があるが、後継者不足から失われていく傾向にある。
以前の緑化フェアは自治体の経費で大掛かりなものだったが、近年は自治体が会場を整備し、コンテンツは造園や環境等の企業等に出展していただく形になっている。もちろん運営や催事は自治体主体である。また市民参加型の協働による展示や催事なども盛んに行われている。

緑化フェアのイベント的効果

・緑化フェアが残したノウハウを継承した地域の緑化イベントが日本各地で開催されている。
・花緑関係者の交流や情報交換が盛んになり、一層の技術向上が促される。
・造園関係会社の市民向けビジネスの技術と営業力の向上。
・園芸ファンの充実や地域活動への波及
・公園整備や道路緑化の充実

緑化フェアの課題

・自治体の予算が縮小する中で全国イベントの意義とのバランスをどのようにとっていくか。
・主催者側の開催意義の誤解（財政規模と一致しない目標入場者数の設定、目玉主義）の解消。
・市民と主催者との意識の統一化（都道府県が開催する場合に市民レベルとの行政とのかい離）。
・産業博覧会のスタイルで緑化ビジネスをいかに振興するか。
・専門性と娯楽性のバランス（ターゲットをどのレベル層に設定するか）。

花のイベントを考える

・公的政策イベント（公共団体主催）→全国都市緑化フェア、国際園芸博覧会　等
・公益的目的イベント（各種団体主催）→各種緑化イベント、植樹祭　等
・産業振興イベント→トレードショー、フラワーカップ

・愛好者団体イベント（日本ではまだ成立していない分野）→チェルシーフラワーショー（英国）

原点に返ってみる

・園芸（造園を含む）の産業・芸術文化分野に特化した博覧会で競争性と共進性をもつ
　→「博覧会」草創期の顕彰制度がいまだに根付いている。

・都市計画および国土環境政策との連動
　→政策との関わりを一層深化させる必要性。ヨーロッパ諸国では政策目的に従い、産業振興と需要喚起の側面が強い。

園芸博と江戸園芸の底力の共通性

日本には現在をはるかに上回る、民間主導による素晴らしい江戸園芸があった。徳川三代将軍の趣味から大名、さらに民業に広がり庶民化していった。1804 年向島百花園開業、1700 年代には菊のコンテストが行われ、1840 年代には菊細工が大流行した。

イベントとしてのテクニック

全国イベントとしての継承要素

・緑化の技術、意匠、製品等に関する展示、普及啓発、交流等と評価顕彰

・緑化活動者の交流の強化

事業形態の多様性

・国際園芸博覧会のような大規模なイベントと、最小の継承要素のみのイベントの 2 つの方向性

政策イベントとしての本質性

・新しい参加者を誘引する事業内容（高度性と入門性のバランス）

――プレゼンテーションの最後に、賀来会員が千葉県流山市にて指定管理業務で携わっている施設の紹介と、個人的に研究活動を進めている鎮守の杜の現状について紹介。

質問およびフリートーク

宮地　江戸東京博物館で紹介されていた黄色い朝顔を、市民の力で復活させるようなことはできないか？

賀来　失われたものは多いので面白いと思う。朝顔、蒲公英など色々あるが、その時は観賞作法と栽培方式も一緒に復元するべきだと思う。

澤内　本日のプレゼンテーションをうかがい 3 つ提案したい。①自分達で植えて食べる花のフェア②オリンピック参加国の樹木や花を植えて来日のおもてなしをする③世界の国旗を花と木で埋め尽くす。これにより単発的なイベントだけでなく、継続的なイベントも発生すると思う。

原田　造園関係者は衰退が進んでいて、大学の造園学科もなくなっている現状もある。昨年十勝の都市緑化フェアを見に行ったが、土日しかバスがなく、平日は交通手段がなかった。緑化関係のイベントは厳しい状況にあるという印象を持った。

小西　北海道の恵庭市では、植栽を重視した都市計画を行い街は花に溢れているが、わざわざ観光で行く人はいない。しかし花の苗の生産が盛んになったことで、農業に従事する女性が増えた。産業構造の変化と活性化のメリットも生じている。

平山　東京スカイツリーから東京を眺めると公園にしか緑がない。壁面、屋上、塀を緑化するしかないが、家が傷む、虫が来るなどのトラブルの心配もある。都会を緑化する方法をイベント化してPRすると、市民の意識も変わってくると思う。

小林座長（まとめ）
緑化とイベントをダイレクトに結びつけるよりも、他の産業や領域から見た緑化を考えるアプローチも必要。例えばスポーツと緑化、外食産業と緑化など、コラボレーションをするような発想が大切ではないかと感じた。日本の都市の緑化活動は一定の役割を果たしている。

※次回研究会は 1 月 17 日（金）16：00～17：30、JACE会議室で開催。

懇親会
半蔵門「さくら水産」にて12 名が参加。
会費は 1 人 1, 000 円でした。

以上